

基礎水理シンポジウム 2013

基礎水理部会長
大本 照憲

土木学会水工学委員会の下に組織されております「基礎水理部会」では、その活動の一環として、2007年度より標記のシンポジウムを開催しています。このシンポジウムは、基礎水理に関わる数多くのテーマを選び、これに関わる講演と中身の濃い議論とを通じて、該当するテーマに関する本質的な部分についての理解を深めるとともに、未だ残されている研究テーマや問題点について再確認することを目指しています。また、若手研究者や大学院生の参加を歓迎し、水理学研究の意義と面白さ、現状の理解と今後の展望などを伝えていくことも目的のひとつとしています。

今回は「移動床水理学が生態系保全に果たす役割」をテーマとして、流域生態系管理に関する最新的话题を京都大学防災研究所准教授の竹門康弘先生より、自然環境の保全に関する話題を土木研究所自然共生研究センターの萱場祐一センター長よりご講演頂きます。また移動床水理学、生態水理学、生態系保全などの分野においてご活躍されておられます埼玉大学大学院理工学研究科教授の田中規夫先生、名古屋工業大学大学院工学研究科教授の富永晃宏先生、土木研究所自然共生研究センターの原田守啓専門研究員、熊本大学大学院自然科学研究科教授の大本照憲に最新的话题についてご講演頂きます。このシンポジウムの運営については基礎水理部会で行いますが、部会のメンバー以外の多くの方々の参加を期待しています。お誘い合わせの上、会場にお集まり下さいますようお願い申し上げます。

- ・日時：2013年12月2日(月) 9:00～16:00(予定)
- ・場所：土木学会講堂(東京都新宿区四谷一丁目無番地)
- ・プログラム：下記の通り
- ・参加費：無料(当日直接会場へお越し下さい)

プログラム

| | |
|-------------|---|
| 09:00～09:05 | 開会の挨拶 |
| 09:05～09:45 | 竹門康弘先生(京都大学防災研究所准教授) 「流域生態系管理における移動床水理学の課題」 |
| 09:45～10:35 | 田中規夫先生(埼玉大学大学院理工学研究科教授) 「低水路内における攪乱生態水理学 ー境界層内の水・土砂・水生昆虫のダイナミクスー」 |
| 10:35～10:45 | 休憩 |
| 10:45～11:35 | 富永晃宏先生(名古屋工業大学大学院工学研究科教授) 「砂礫床河川における乱流計測と摩擦速度の推定について」 |
| 11:35～11:50 | 討議 |

- 11:50 ～ 12:50 昼休み
- 12:50 ～ 13:50 萱場祐一センター長（土木研究所自然共生研究センター）
「回答待ち」
- 13:50 ～ 14:40 原田守啓専門研究員（土木研究所自然共生研究センター）
「基礎水理の実際問題への応用～中小河川研究を中心に～」
- 14:40 ～ 14:50 休憩
- 14:50 ～ 15:40 大本照憲（熊本大学大学院自然科学研究科教授）
「菊池川下流域における流れ，土砂輸送および自然再生事業
について」
- 15:40 ～ 16:00 総合討議

平成 25 年度 水工学委員会 第 3 回幹事会

河川部会報告

河川部会長 松田寛志

1. 2014 年度河川技術に関するシンポジウムについて

- ・開催期日 2014 年 6 月 5 日 (木)・6 日 (金)
- ・開催場所 東京大学農学部 弥生講堂 (文京区弥生 1-1-1)
- ・参加費
一般 (会員) 6500 円、一般 (非会員) 8000 円、学生 (会員・非会員) 4000 円

・要旨による応募方法

応募方法は、2013 (平成 25) 年 12 月上旬までに河川部会ホームページに掲載しますのでご覧ください。

応募締切り 2014 年 1 月 29 日 (水) 17:00

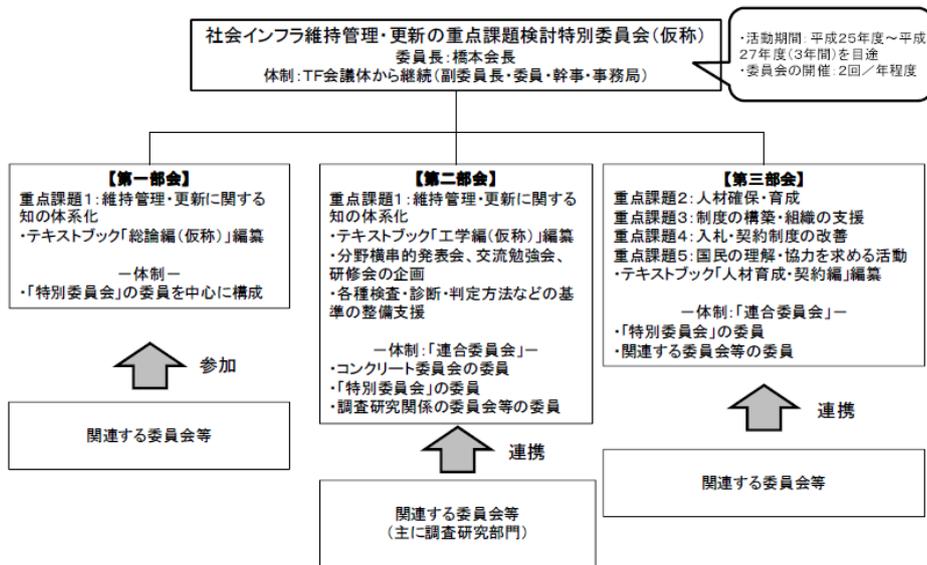
特定課題 1 : 「河道計画・管理のための流れ・地形変化の解析技術力向上に向けて」

特定課題 2 : 「降雨・洪水予測技術の高度化と防災情報・対策への応用」

2. 「社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会」報告

テキストブック作成について

土木学会 社会インフラ維持管理・更新に関する重点課題検討特別委員会の体制(案)



下記の社会基盤メンテナンス工学を参考に今後特別委員会にて記載すべき事項の方向性を検討する。

TOP > 書籍一覧・検索 >

社会基盤
メンテナンス工学



在庫あり
税込3780円/本体3600円

社会基盤メンテナンス工学

土木学会メンテナンス工学連合小委員会編
ISBN978-4-13-062807-5, 発売日:2004年03月中旬, 判型:A5, 328頁

内容紹介

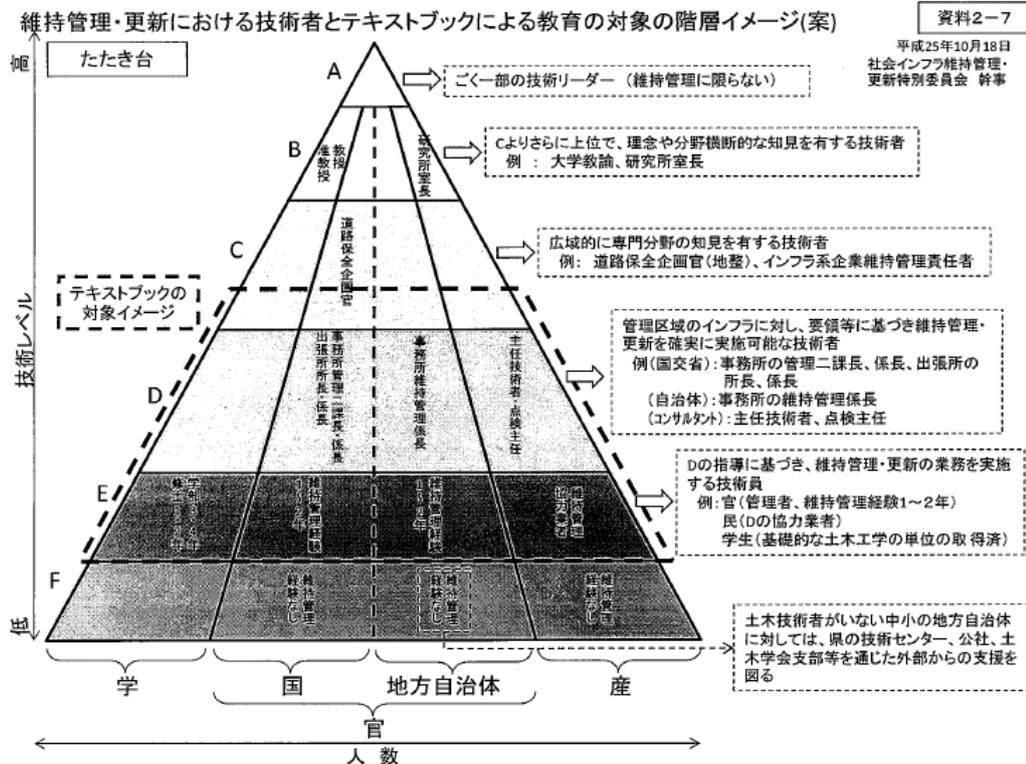
鉄道、道路、橋など、日本の産業と生活を支える社会基盤施設をいかに維持管理していくか、いま求められるメンテナンス工学を、初めて包括的に体系化した教科書。メンテナンスのマネジメントから、劣化の要因と機構、点検・モニタリング・診断、補修・補強、新設構造物の設計・施工へのフィードバックまで、バランスよくまとめられている。

主要目次

はじめに

- 1 社会基盤メンテナンス工学 序論
- 2 メンテナンスマネジメントシステム
- 3 構造物の劣化の要因と機構
- 4 構造物の点検・モニタリング・診断
- 5 構造物の補修・補強
- 6 メンテナンスから新設構造物の設計・施工へのフィードバック
- 7 次世代の社会基盤メンテナンス工学

テキストの対象者のイメージ



土木学会 社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討 特別委員会
第2回会議(拡大委員会) 議事次第

1. 日 時 平成25年10月18日^(金)_(木) 13:00~15:00
2. 場 所 土木学会 講堂
3. 参加予定者:特別委員会委員、(同席)第二部会関連の委員会委員
4. 議事次第(案)
 - (1) 橋本委員長ご挨拶(5分)
 - (2) 委員・部会委員ご挨拶(15分)
 - (3) 「インフラメンテナンス工学(仮称)」テキストブックの編纂方針について(80分)
 - ①「社会インフラ維持管理・更新 特別委員会」の設置について(5分)
 - ②第一回会議 議事要旨紹介(5分)
 - ③テキストブック「インフラメンテナンス工学」の概要について(15分)
 - ④関西支部「社会基盤施設の維持管理のための各種スキーム検討委員会」での取組み(15分)
 - ⑤国交省における技術者研修計画について(5分)
 - ⑥討議(45分) テキストを「だれのために」、「どんな内容で」、「いつまでに」
 - (4) 第三部会等の取組み方針について(5分)
 - (5) “Report Card for America's Infrastructure”の作成に関するヒアリング結果(10分)
 - (6) 「社会インフラのメンテナンス特別企画」の報告(5分)
 - (7) 次回の会議開催について
5. 配布資料(次頁のとおり)

水害対策小委員会

活動報告

2013年10月の幹事会後の活動

- 2013年10月： 土木学会伊豆大島緊急調査団への参加サポート
団員： 群馬大学・清水先生、京都大学・竹林
CPD申請用紙の作成
河川災害シンポジウムの企画
- 2013年11月： 京都・滋賀水害調査団速報会実施サポート

今後の活動（2013年度）

- 2013年11月： 山口・島根水害調査団報告会のサポート
- 2014年3月： 河川災害シンポジウム開催
2013年度第二回小委員会開催

河川災害シンポジウムプログラム案

司会： 京都大学・竹林

15:30～15:55 山形水害

東北大学・田中先生

15:55～16:20 山口水害

山口大学・羽田野先生

16:20～16:45 秋田水害

秋田大学・松富先生

16:45～17:10 京都・滋賀水害

京都大学・中川先生

17:10～17:35 伊豆大島災害

群馬大学・清水先生

発表時間：20分，質疑応答：5分

CPD登録用調査実施証明書



公益社団法人土木学会

〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内
TEL 03-3355-3559

水害調査実施証明書

調査実施者：

調査日時：

調査場所：

上記の者が水工学委員会水害調査団の団員として調査を実施したことを証明する。

土木学会水工学委員会水害対策小委員会
委員長 堀智晴（京都大学）

「流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ」プログラム

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会

1. 開催主旨

流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会は、土木学会水工学委員会と土木計画学研究委員会の研究者からなる両委員会共同所管の小委員会として平成14年10月7日に設立されました。

小委員会では、水工学と土木計画学に携わる研究者および都市と河川行政関係者が今後の流域管理と地域計画の具体的な連携方策について議論し、国土交通省水管理・国土保全局の河川砂防技術研究開発制度等と連携して特定課題について共同研究等を実施することにより、流域管理と都市・地域計画の相互連携による総合的な街づくりの実現を目指しています。

今回は、「流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ」と題して、流域管理と地域計画の連携方策に関する取組みやその課題等を土木学会会員と行政で共有するとともに、これらの課題に対する理解を深めていきたいと考えています。皆様のご参加をお待ちしています。

2. 開催日時、場所等

日時：平成25年12月16日（月）14:00～17:00

場所：土木学会講堂（東京）

主催：土木学会 流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会、水工学委員会、土木計画学研究委員会

3. プログラム（発表者は予定、タイトルは仮題）

（1）流域管理と地域計画の連携方策研究に関する経緯と今後の展望

中央大学研究開発機構教授 福岡捷二（小委員会委員長）

東京大学大学院工学系研究科教授 家田 仁

（2）連携方策に向けたとりくみ例

・「津波防災まちづくりの計画策定に係る指針」

伊藤 洋（国土交通省都市局都市安全課）

・「水災害分野におけるリスク評価について」

今井 誠（国土交通省水管理・国土保全局河川計画課）

・「下水道と河川のストックを活用した浸水対策について」

植松龍二（国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道企画課）

・「兵庫県における総合治水条例の概要と取組」

山内 良太（兵庫県総合治水課）

（3）全体討議（参加者全員）

4. その他

参加費：無料 ※申し込みの詳細は後日お知らせします。

（問い合わせ先）京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 立川康人

[Tel:075-383-3362](mailto:tachikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp), tachikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp

国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 永山隆治

[Tel:03-5253-8446](mailto:nagayama-r2ne@mlit.go.jp), nagayama-r2ne@mlit.go.jp

平成 25 年 10 月 20 日

水理公式集改定

委員会構成／主査・幹事案（合計 22 名）

○主査・幹事（17 名）

- | | | |
|-------|---------|-----------------------------|
| 第 1 編 | 水文・水理 | 中北英一（京大）／泉典洋（北大）／細田尚（京大） |
| 第 2 編 | 河川・砂防 | 中川 一（京大）／藤田光一（国総研）／清水義彦（群大） |
| 第 3 編 | ダム | 箱石憲昭（土研）／角 哲也（京大）／道奥康治（神戸大） |
| 第 4 編 | 水資源・水処理 | 古米弘明（東大）／田中宏明（京大）／鈴木穰（土研） |
| 第 5 編 | 海岸・港湾 | 佐藤慎二（東大）／間瀬肇（京大）／田中仁（東北大） |
| 第 6 編 | 河川・流域環境 | 萱場祐一（土研）／二瓶泰雄（東理大） |

○編集幹事（5 名）

清水義彦（群大）・立川康人（京大）・関根正人（早大）・知花武佳（東大）・戸田祐嗣（名大）ほか

（海岸，環境からの人選含める）

※辻本以降の水工学委員会委員長，幹事長には協力を仰ぐかたち

平成 25 年 10 月 20 日

水理公式集改定 目次案

第 1 編 水文・水理

1. 気象と流域水文現象（降雨，気温，風，．．．）
2. 水文統計
3. 流出過程と流出解析
4. 流体運動の基礎（拡散，乱流など含む）
5. 開水路流れ
6. 管路流れ
7. 混相流（密度流含む）
8. 浸透流・地下水流
9. 波
10. 流体振動

第 2 編 河川・砂防

1. 洪水（洪水流出・洪水予測，洪水流水理）
2. 土砂生産と流出土砂量
3. 砂防
4. 流砂
5. 河床変動・流路変動
6. 河川構造物
7. 河川の水環境（水質）

第 3 編 ダム

1. ダムの計画と設計（水資源計画含む）
2. 堰・越流頂
3. ゲート・バルブ（選択取水など含む）
4. 減勢工
5. 貯水池管理（水質・水温／施設）
6. ダム堆砂と排砂

第 4 編 上下水道（環境工学委員会の協力）

1. 水資源・上水道
2. 市街地流出（量・質）

3. 下水道管路網
4. 水処理
5. 汚泥処理

第5編 海岸・港湾（海岸工学委員会の協力）

1. 波浪
2. 波の変形（回折・砕波，流れとの干渉含む）
3. 長周期波（潮汐，高潮，津波）
4. 沿岸流
5. 漂砂と海岸過程
6. 波と構造物（打上げ・越波，波力，波と地盤／構造物）
7. 河口部

第6編 河川・流域環境

1. 河川・流域環境のシステムとしての構造と機能
（水循環，流砂系，物質循環，生態系）
2. 水環境と生態系
（光・熱環境，物質循環，河川による輸送過程）
3. 河川環境
4. 湖沼・貯水池環境（とくにダム貯水池をしっかりと）
5. 湾域・沿岸域環境
6. 地下水環境

資料7

| 水工学委員会行事 | 開催形式 | 内容 | 開催場所 | 参加人数 |
|--|----------------------------------|---|---|--------------------|
| 平成25年5月10日 6月6～7日 7月2～4日 | 主催 主催 共催 | 平成24年7月九州北部豪雨による災害調査団合同報告会 ～線 2013 年度河川技術に関するシンポジウム 平成25年度 魚道ワークショップ | 九州大学医学部百年講堂 東京大学農学部 弥生講堂 日本大学理工学部駿河台校舎 | 132 |
| 8月26～27日 | 主催 | 水工学に関する夏期研修会 | 名古屋工業大学 | Aコース93, Bコース111 |
| 平成25年8月22日 平成25年11月6日 2013/11/13～15 平成25年11月18日 平成25年12月2日 12月16日 | 主催 主催 共催 共催 主催 主催 | 水シンポジウム こうち 土木学会水工学委員会 京都・滋賀水害調査速報会 河川流・河床変動解析ソフト:iRIC version2.0 講習会 in 関西 土木学会水工学委員会 山口・島根水害調査速報会 基礎水理シンポジウム2013 流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ | 高知市文化プラザかるぽーと キャンパスプラザ京都 京都大学防災研究所 山口県教育会館 ホール 土木学会講堂 土木学会講堂 | 93 |

○水工学委員会の説明文について

水工学委員会が何を目的とし、何をするとどこかを問われることがときどきありますが、それを簡潔に文章で示したものがないようです。内規には、明確に水工学委員会の目的・活動が記述されていますが、水工学委員会委員用の記述となっていますので、土木学会以外の方々には、中身が分かりにくい文章となっています。そこで、内規を補って土木学会以外の方にもイメージを持ってもらえるような文章を作成してみました。問題がなければ水工学委員会ホームページの「水工学委員会について」に入れたいと思います。ご審議をお願いします。

ここから

水工学委員会について

水工学委員会は、河川や水資源に関する工学とそれらに関連する諸課題の調査・研究、それらの推進・情報共有を図ることを目的として活動しています。専門分野別に構成される四部会（水文部会、基礎水理部会、環境水理部会、河川部会）での研究・調査活動を始めとして、突発的な水害調査を担当する水害対策小委員会、地球温暖化などの地球環境変化と水問題を扱う地球環境水理学小委員会など分野横断的な小委員会活動を実施しています。また、水工学に関する書籍や論文集を編集し、水工学講演会、河川技術に関するシンポジウム、水工学に関する夏期研修会等を開催して、最新の水工学に関する知見の情報共有を図っています。さらに、水シンポジウムを各都道府県で開催し、市民・学会・行政・民間が一同に会して水に関する諸問題をともに議論し、相互理解と情報共有を図る機会を提供しています。

土木学会論文集編集委員会 編集調整会議からの報告

関根

論文の取り下げについて

- J-Stageにより示されている「記事データの訂正・修正等についての推奨基準」の中に定められている「記事撤回」の手続きに従い対応する.
- 水工学論文集に関しては, 次巻のCD版論文集にも取り消しの記事を掲載する.
- 詳しくは上記文書を参照のこと.

J-Stageに掲載されている水工学論文集 (前身誌, 1990-2008)の英語名称について

- 1990～1994年の水工学論文集はProceeding of Hydraulic Engineeringという名称で登録・発行されていた。
- 1995年度以降はAnnual Journal of Hydraulic Engineeringという今の名称に変更したが、J-Stage側にはそれが伝わっておらず、上記の名称のままになっている。
- 出版情報(ISBNなど)上は、当初の英文名称のままになっているようで、上記の変更の情報が届いていないのではないかと?
- 他の特集号も同様の問題を抱えており、土木学会論文集編集委員会執行部がこれを確認し、可能であれば変更について相談する。

BIB-XMLファイル化に伴う変更

- 通常号については、MS-WORDあるいはLaTeXによる自動組版ソフトを開発中であり、これを使えばPDFファイルとともにBIB-XMLファイルも作成される。
- もし、水工学論文集のフォーマットを土木学会論文集通常号のものにあわせれば、このソフトを活用できる。
- あるいは他の特集号とも共通のフォーマットを新たに定め、これに対する自動組版ソフトの開発を依頼することも可(?)
- その際には、通常号の1ページ目にある和文アブストラクトを削除し、ここに最終ページにある英文アブストラクトを配置するだけで、それ以外の大きな変更は必要ないのではないか?
- 今後引き続き検討を進めていく必要がある。